

二葉 東京支部だより

第 21 号

平成 28 年 8 月 15 日発行
諏訪二葉高等学校同窓会
東京支部編集委員会

題字 今井綾子(高女 28 回)

同窓会は大きな方向転換の時期を迎えています

東京支部長 濱田真由美

会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

初めから厳しい現実のお話をいたします。平成 27 年度の収入は、前年度からの繰越金 2,270,675 円と維持費等の合計 3,007,633 円。それに対して支出は 2,053,343 円。その為、平成 28 年度への繰越金は 954,290 円です。

ここ数年、同窓会への新規会員確保が難しく減少傾向であること、さらに、維持費納入率の低下（昨年度は 2,972 名の支部会員の中での納入者は 732 名、25%）等で収入が少なくなっていることと共に、支出が増大したことが運営を難しいものにしております。

特に支出では、一昨年まで「大先輩のご厚意により、役員会と総会会場を無料で使用させていただいた日本青年館」が 2020 年に開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて改築するために利用できなくなった事が、大きく影響しています。新会場になったホテルメトロポリタンエドモントは会場費と設備費で 40 万円ほど掛かりました。しかしこの支出は、世間的には想定内で、今までがあまりに恵まれていたと言わざるを得ません。

昨年度の総会費用は 1 人当たり 11,080 円でした。会費は 6,000 円でしたので、同窓会からの持ち出しは 1 人当たり 5,080 円でした。そこで、本年度は郵送代や印刷代を除いた会場費に関しては会費の 6,000 円で収まるよう、大幅な経費削減を計りました。具体的には、今までビールや珈琲、紅茶を提供しておりましたが、お茶のみとする等の工夫をいたしました。更に会場費の削減ができるように模索し、平成 29 年度はアルカディア市ヶ谷（私学会館）で 5 月 14 日(日)に開催することにいたしました。

収入面では、維持費の納入率アップを会報や幹事の皆様のお力を借りてよびかけていきます。平成 28 年度総会において「賛助会費」が新設承認されました。80 歳以

上の大先輩たちからの「賛助会費」は、心苦しいところではありますが、どうぞ、ご支援のお気持ちをお寄せくださいませ。

また、維持費の金額については、平成 28 年度総会において「1,000 円という金額は 30 年以上前から変わらない金額なので値上げも止むを得ない」との意見を多数いただきました。今後は、2,000 円への値上げも視野に入れて検討させていただきます。

会員拡大も大きな課題です。6 月に 15 年振りに新名簿が発刊されました。本部からデータをいただきましたので、DM による会員拡大を図ると共に、現在の同窓会に対する意識調査を行い、時代のニーズに合致した組織運営を、と考えております。

実を申し上げますと、私自身が同窓会の活動については「無関心」な会員で、副支部長を引受ける昨年度まで総会等に参加しておりませんでした。現役で働いていると、平日開催の同窓会総会への参加は余程の事が無いとできません。ましてや、支部長（役員含め）を引き受け活動の先頭に立つことは、現役世代には厳しい話です。

会員数を増やすのが困難な状態であると同様に、役員の選出も難しい状況の中で、本年度は、現役世代が役員を引受けても重荷にならない運営方法を模索しています。総会・幹事会の内容を再検討し、年間 10 回程度行っている役員会の回数や書類の分量を、少しでも減らす方向で知恵を絞っています。

このような現状を踏まえ、本年度は思い切った方向転換をするつもりであります。

なにとぞ、同窓生の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いする次第でございます。



「フレームを通して語りかけるもの」

講師 中村梧郎氏
(岡谷市出身 諏訪清陵高校卒業)

【中村梧郎氏の紹介】

1970年からベトナム戦争を取材。1975年以降は写真の記録を通して枯葉剤問題を検証された。その間には1975年日本ジャーナリスト会議JCI奨励賞を始めとし、たくさん賞を受賞された。『新版・母は枯葉剤を浴びた』『写真で何ができるか』などの多くの著書がある。2010年からはホーチミン市戦争証跡博物館で中村氏の作品が常設展示、2015年には茅野市美術館で「中村梧郎展」が開催された。前・岐阜大学教授。



講演会では、生と死が背中合わせの命がけの状況の中で撮られた貴重な写真を拝見しながら、様々なお話をさせていただきます。

○ベトナム戦争(1960年～1975年)

米軍機による爆撃の下で取材を行い、タコツボ(防空壕)で夜を過ごしたこともありました。ベトナム戦争でアメリカ人はベトナムの人々を虫けらのように扱い、何百万人も人が命を落としました。爆撃を受け洋服を焼かれ火傷を負いながら逃げる少女。彼女はカナダ人と結婚して、現在カナダの平和親善大使として平和を訴えています。

○枯葉作戦(1961年～1971年)の傷跡を追う。

戦争終結から今年で41年。ベトナムはジェノサイドに加えてエゴサイド(環境の絶滅)の実験場とされました。

枯葉剤で熱帯雨林と農地が

全滅。ダイオキシンTCDDは発がん物質で強い催奇形性もあって子供たちの先天障害を引き起こしました。

ベトちゃん、ドクちゃんとは生後10カ月のころ出会いました。お腹でつながっていても神経系、血液型も別で切り離し手術に成功。ドクは数年前に亡くなりましたが、ベトは片足1本ですが結婚して男の子と女の子の双子のお父さんです。病院事務をしています。賃金が安いので夕方5時からもう一つの仕事をがんばっています。枯葉剤を散布してそれを浴びたアメリカ兵、海外派兵の韓国兵にも症状が顕在化しています。枯葉剤を浴びた人だけでなくその人たちから生まれてきた子供たちまで、40年以上もの間苦しみは続いているのです。

戦争は人為的なものなので防ごうと思えば防げるが災害は防ぎようがありません。災害が起こったあとのケアをどうするか大切、という言葉が印象的でした。

○福島原発事故(2011年)

3・11から5年経ったが

事故原因は未解明。この間、汚染水は垂れ流し。また、福井地裁や大津地裁で運転停止の判決が出たにもかかわらず日本は原発再稼働へと走っています。地震学者が「想定を超える危険な事態」とした熊本地震に対しても、活断層の延長線上にある川内原発や伊方原発の停止をしません。その上でベトナムやインド、トルコへの原発輸出を推進しています。

フクシマを教訓にアメリカはこの間に7つの原発を停止させました。ドイツは2022年までに全原発の停止を決めました。日本は人体への耐容量は1ミシーベルトが限界とされていましたが、20ミシーベルトまで安全だとして20倍の汚染域に福島の被災者を帰還させようとしています。

○ジェノサイド(大量虐殺)

現代は無人攻撃機時代。アフガンやイラク爆撃は、アラスカやネヴァダの空軍指揮部に出勤する職員の手で、ゲームのように画面でナビゲートされているのです。

日本の、集団的自衛権行使が安全保障となる、という考えは危険で、米軍と共に敵視されたら54基の原発がテロの目標に

なり得るのです。

○沖縄からの出撃
本土復帰44年。沖縄は未だ占領下に等しく、今日、沖縄はアラブ世界などへの米軍の出撃拠点と化しています。

我々はダイオキシン汚染、放射能汚染、戦争の危険にさらされている時代に生きているのです。

中村梧郎氏にご講演いただき、私たちは平和と安全をどのように考えて生きていかなければならないのだろうか、と改めて考えさせられました。

(松澤由美子)



「母校の思い出 そして俳優人生の選択」

講師 高山猛久氏
(諏訪二葉高校卒業)

【高山猛久氏の紹介】
高山氏は諏訪二葉高校の50回生。お母様も諏訪二葉高校ご卒業の10回生。

平成27年11月の拡大幹事会

での講演会には、諏訪市生まれで諏訪市育ちの俳優高山猛久氏をお迎えいたしました。

体が弱く病院で過ごす時間も多く内向的な幼少期でしたが、小学校に上がるとその性格も一転、やんちゃな小中学校時代を過ごされました。

自由な校風の諏訪二葉高校では、学業よりも部活のバスケットボールとバンド活動。そして、アルバイトに打ち込んでいたそうです。その後、演劇の勉強の為にアメリカ留学なされた時の苦しい出等、お話しただきました。

帰国後の舞台・映画・テレビで共演された大物俳優の方々とこのエピソードは大変新鮮で、楽しく拝聴させていただきました。



(藤森ゆり子)

今回、「ご自身初の講演が、俳優デビュー10周年の節目の年に母校の同窓会東京支部の幹事会、ということで諏訪二葉高校との繋がりを痛感なさったそうです。

今も、人と人との繋がりが縁を大切にしながら活躍の場を広げていらつしやいます。今年公開された諏訪地域発信の映画第一弾「タロット探偵 ポプ西田」の主演・製作にも携わり、諏訪地域を盛り上げようとなさっている姿勢は、諏訪の自然や景色の素晴らしさを伝える映像からも感じられます。

華やかな印象と、丁寧なお話しぶりから伺える誠実なお人柄で、大変楽しくあつという間の90分間でした。

総会報告

東京支部副支部長
五味のりほ

5月17日(火) ホテルメトロポリタンエドモントにおいて、東京支部総会を総勢144名の出席により開催いたしました。来賓として母校小池良彦校長先生、本部より竹花光子同窓会長、桜田智子、小林佐江、小林真里枝各副会長にお越しいただきました。

総会は、浜副支部長(27年度)の司会により開会、校歌斉唱に引き続き、27年度の物故者の皆様に謹んで黙祷を捧げました。議事に先立ち、石上支部長(27年度)より「今後同窓会を若い世代に繋げていくため、課題への取り組みにご理解とご協力をいただきたい」とのご挨拶があり、引き続き、ご来賓の小池校長先生と竹花同窓会長より「祝辞を賜りました。議長に山口睦美さん(24回生)が選任され、すべての議事が承認されました。運営内規改正により「80歳以上の維持費は賛助会費とし、納入は任意とする」との項目が加えられました。

午後の第2部講演会は岡谷市出身で諏訪清陵高校卒業のフォトジャーナリスト・中村梧郎氏をお招きして、「フレーム

を通して語りかけるもの」と題して写真映像を交え、戦争の悲惨さと現代社会が抱える問題点についてお話しいただきました。

第3部の茶話会では、高女34回生の矢崎花子様、高女36回生の青木武子様から同窓会の思い出をお話しいただき、高校7回生17名の皆様の傘寿(80歳)をお祝いして、花束を贈呈しました。7回生を代表して北山敬子様より「これからも同窓会を支援していきたい」とのご挨拶をいただき、同期会のためにご用意されていたお金が、東京支部への寄付金として贈呈されました。

最後に全員で「白き翼」を歌い、閉会しました。総会が滞りなく進行出来ましたことを、心よりお礼申し上げます。



傘寿を迎えられますます若々しい皆様

母校だより

～二葉生たちの今～

諏訪二葉高校では、この春、男子104名女子137名の新入生を迎え、総生徒数は男子291名女子427名総計718名となりました。また、卒業生達は国立大学を始めとした進学、就職等それぞれの未来へ羽ばたきました。

現役の二葉生も各方面で活躍しています。

平成27年11月1日に行われた全国高校駅伝長野県大会では、男子が6位入賞。女子は2位と健闘し北信越大会へと進み、10位となりました。平成28年2月26日から28日に開かれた第6回全国高校選抜スピードスケート競技会では、2年生原田佳祐さんが男子3000メートル、堀あかりさんが女子1500メートルと女子マススタートに出場しそれぞれ優勝を飾りました。

平成28年4月の熊本地震に際して、諏訪二葉・諏訪清陵・諏訪実業高校の生徒会役員がJR上諏訪駅前募金活動を行い、校内で募った額と合わせて25万円余りを日本赤十字社に託しました。

母校は明治41年の設立以来、平成29年に創立百十周年を迎えます。

〜輝く同窓生①〜

同窓生の絆

高校七回生 小林幸子

私は高校七回生です。諏訪二葉高等学校を卒業後、千葉県市川市にある和洋女子大学家政学部生活学科を卒業致しました。都立高校の非常勤講師、大手電機メーカーの直営給食部の栄養士を経て、母校の家政学部に助手として就職しました。

和洋女子大学は平成二九年に百二十周年を迎えます。私は昭和三八年から平成一九年七十歳の定年退職まで、四四年間栄養士養成教育に携わってきました。平成十年に行われた学内組織の改革で、短期大学部食物栄養科の学科長に就任しました。その後、社会の景気低迷に逆らえず平成十四年に短期大学部廃止が決まり、短期大学の四八〇名の枠は大学に吸収されることになりました。



この時、短期大学の部長の任に就いた私の気持ちは複雑なものがあり、短期大学の部五四年

年間の歴史の幕引きをどのように伝えたら良いのか、大学の発展に果たしてきた功績を末長く伝えていくにはどうしたら良いのか、日々頭から離れませんでした。

そんな時、諏訪二葉高校同窓会東京支部総会で光を頂きました。それは高校三回生の抽象彫刻家井上玲子先生の「『揺籃』の誕生 かたごころ」と題した講演会を聞くことができ、映像に映し出された『揺籃』の姿と井上先生の作品に対する意気込みを知り、「これだ」と心を感じる物がありました。講演の後、会場で七回生の北山敬子さんにお願いをして、井上先生にお引き合わせ頂きお話をする事ができました。

大学では幕引きのアイデアを公募していましたが、幸いにも私が提案した井上先生にモニュメントを依頼する案に決まりました。モニュメントは約二年の歳月をかけて完成しました。制作に着手するまで、井上先生は特撮カメラマンでいらっしやるご主人と二人で

何回も足を運ばれ大学の雰囲気を観察され、また直接言葉をお交わして学生の気質などを肌で感じ取り、作品のイメージを膨らませていらっしやいました。ここまでやって下さるのと頭の下がる思いでした。空を仰ぎ風に泳ぐ若い女性の姿を連想させる、高さ一・五メートルのモニュメントが『風の詩』と命名され、本学教授の書道家による『短期大学部ここにありき』という銘板を添えて、東西南北の四つの校舎から眺められる中庭に設置されました。

平成一七年五月の除幕式には井上先生ご夫妻をはじめ同期の方、七回生の友人たちが多く出席して下さい、諏訪二葉高校との絆を強く感じました。

井上先生は平成二二年九月に亡くなられてしまいました。が、二葉高校の大先輩に助けられて短期大学部最後の学部長として熱き思いを在學生、卒業生に届けることができました。ことに深く感謝しております。



高校七回生からのお手紙

総会終了後、卒寿の皆様から温かいお手紙をいただきました。

○紙面の都合で一部文章を割愛させていただきます。

■齋藤三千代様

梅雨の季節を迎え「ガクアジサイ」がしっとり濡れ、風にゆれていきます。

総会では皆様方の心遣いや心のこもったプレゼントを頂戴し、感激の一言でした。

高校時代の思い出は数多くですが、授業時間を自分で選択しスケジュールを作り教室を移動しての授業でした。教科の度に仲間が変わり「コンニチハ」「次は何処」等と云って多くの仲間を作ることが出来ました。それが高校七回生の仲間意識が強い一つの理由かと思えます。年を重ねて見る夢にその授業が現れ「えっ！次は何処の教室だったのかしら？」と慌てるのが多々ありました。女性だけでの世界、懐かしい日々でした。

■井川ひろ子様

八十歳を迎える記念の年の同窓会に17名の同級生と参加してお祝いしていただき、花束のプレゼントを受けて感激しました。ありがとうございます。

私達が入学したのは昭和27年、戦後七年目で日本がまだ貧しい頃で二葉高校への入学はほんとうにうれしかった。みんな同じだったと思います。

卒業して60余年、回を重ね今年で公の学年会は終了しましたが、小さな集まりは続くことと思えます。この60年の世の中や生活の様変わりは激しく、年齢差のある人々との交流はとて難しくなりました。同窓会はもしかしてそのキーになるかと思えます。

がんばって会を盛り上げて下さるよつ心から応援しています。

★二寄付をいただきました★

- ・七回生白樺会様から ……五万円
- ・七回生有志の方から ……二十万円

ありがとうございます。ご厚意に応えられるよう、有意義に使わせていただきます。



振り返ると・・・

高校四十回生 伊藤理佐

一葉高校在学中、17歳で漫画「先祖様もありがたいけれど、家デビユーしてそれっきり。ずまあ、背景はソファアの柄だっつと漫画を描いて暮らしていたり、きのう手入れた庭だつます。今は東京暮らしで、今46たり、シンクにお皿がたまつて歳なのでもうすべ30年。あれ？いる台所かもしれない。今のわ若いつもりが、けつこうやつてたしは？振り返ってみると、整理されていない本棚(お菓子や

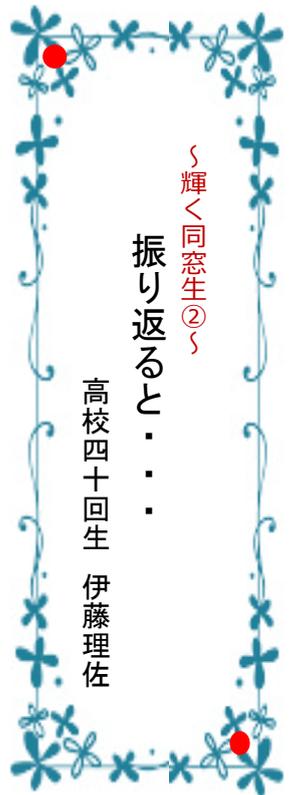
そんな先日、なんだか「背景」からお茶パックやらものせていることについて考えることがありました。うっ、これがわたしであったのです。それは「近所マシの背景があ……少しは片付マさんと新宿の伊勢丹でバックけないとなあ……。

タリ偶然会った時。いつもとぜんぜん違う背景がおかしくてお互い笑い合いつつしてしまいい、ハッと「人って絶対いつも背景があるなあ」と気づいたのでした。いつもは近所の道バタ、スーパー、今年一年生になつたムスメの小学校下駄箱前、電信柱前、パン屋さんの前……

ケ岳の麓から上諏訪の二葉高校に通う通学路、大根坂、二葉たいな真つ白い布の前で会うわけないもんねえ、背景って結構大事だなあ……。

後ろを振り返ると「先祖様同級生……」

そいつ、漫画で主人公の背



景の人間、「うしろのその他大勢」の人を「モブ」と呼ぶので、やる時はやって、勉強して、運動して、なんだか一生懸命な「モブ」が、わたしのうしろにはいたのです。同級生を「背景」「モブ」っていうと「うんと」失礼だけど、とてもよい「背景」「モブ」で、わたしはそのオーラみたいなモノを浴びて、時々吸っていたと思います。

わたしはつられやすい性質で、背景が悪いと自分も悪くなつてしまふ。そうなることに恥ずかしながら自信があります。よい「背景」の中にいたなあ、わたし「背景」に恵まれていたなあ、ラッキーだった……なんて事を考えてた最近でした。というわけで、さて、まず、本棚を片付けようと思います。



ふりかえると……

■小平ミキ子様

支部総会では私たち七回生の同窓会卒業に当り、濱田支部長さんお手作りの心のこもった花束を頂きありがとございました。

思いかえせば、最後の三年間幹事として同窓会に関わらせて頂きました。その間以前にはなかつた拡大幹事会で、各界で活躍されている方のお話を聴く事が出来て、幹事をした甲斐がありました。これからは財政上の面で拡大幹事会はなくなるとの事でしたが、その分総会を充実させて、先細りの会員拡充に向けて活躍される事を希望します。

■藤森博子様

役員の皆様にあたたかいお心遣いの込められた素敵なお花束、嬉しくありがたく頂戴致しました。六十数年前、私共が在籍していた頃の二葉の標語のひとつに「ありがたさを思え」というのがありました。

あの二葉ヶ丘を心のふる里とする東京支部の存在を改めてありがたく思った一日でした。

ありがとございました。

■久保田繁子様

同窓会を振り返ってみますと数えきれない思い出がわいて来ます。同窓会東京支部では平成元年役員、支部長青木武子様(高女36回)と共に記録係(高校7回)を二人で務め、『東京支部のあゆみ』第一号発行の仕事もさせて頂きました。先月の同窓会で青木様にお会い出来お祝いのお言葉をいただき感激致しました。

高校一年の部活はバレー部、二年の時バドミントン愛好会、三年の時にバドミントン部を設立し卒業しました。二葉が男女共学になり昭和六十二年八月十七日「バドミントン白羽会」同窓会に、第一回卒業者として招待され母校新体育館で、先生を含め四十五人が参加、在校生男子部員と試合、その後の体育館での親睦会は、忘れられない思い出です。

ツイッター&フェイスブック

「諏訪二葉高校同窓会 東京支部」

ご活用ください。

「長野県諏訪二葉高等学校」

公式ホームページ

<http://www.nagano-c.ed.jp/futaba/>

にPTA・同窓会のサイトがあります。各支部の活動がご覧いただけます。